

140周年展+大学史資料館(大学博物館)設立準備： NEWS LETTER(No.2)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: (仮称)大学史資料館設立準備委員会 公開日: 2019-11-11 キーワード (Ja): 大阪商大生の学生時代を語る高尾弥三郎氏寄贈資料, 元素分析の要であったクールマンの微量化学天秤, 小竹無二雄, 久保田尚志, 目武雄 キーワード (En): 作成者: 著者不明 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24544/ocu.20200312-015



大阪商大生の学生時代を語る高尾弥三郎氏寄贈資料

この資料群は、本学の前身校のひとつである旧制大阪商科大学（以下、商大）を卒業した高尾弥三郎氏から、1989年以降、数回にわたり大学史資料室に寄贈された在学時代のものである。高尾氏は1935（昭和10）年に商大予科（3年間）に入学、1938（昭和13）年に本科＝学部（3年間）に進学、1941（昭和16）年に卒業する。大阪市内の自宅は戦災で焼失したが、この資料群は疎開していたため、戦火を免れた。

資料の内容は、入学試験の受験票から始まり、学生証、時間割、講義ノート、学期試験問題、成績表（学部は受験届控）、授業料領収書、通学定期券、卒業式の式次第など多岐にわたる。約80年前の商大生にかかわる、まとまった実物資料として実に貴重な資料である。

「新入生注意要項」には、「新入生ハ制服ノ調フ迄、当分ノ間、出身中等学校ノ制服ヲ着用スルコトヲ得」とあり、制服ができるまで出身中学校の制服を着てもよいことになっている。さまざま制服が混在する4月の学園風景が目に見えよう。

学部の時の、4月と9月および翌年1月の、3期に分けて40円ずつを納めた領収書が残る。大阪市民の場合の年間授業料は、120円（大阪市外は140円）であった。

高尾氏は運動が得意だったようだ。学友会発行の委嘱状からは、弓道部の幹事（責任者）を担っていたことがわかる。1939（昭和14）年11月に第10回明治神宮国民体育大会（現在の国民体育大会の前身）に出場し、主催者である厚生省が発行した「選手票」（出場資格証）や参加章であるメダルが残されている。

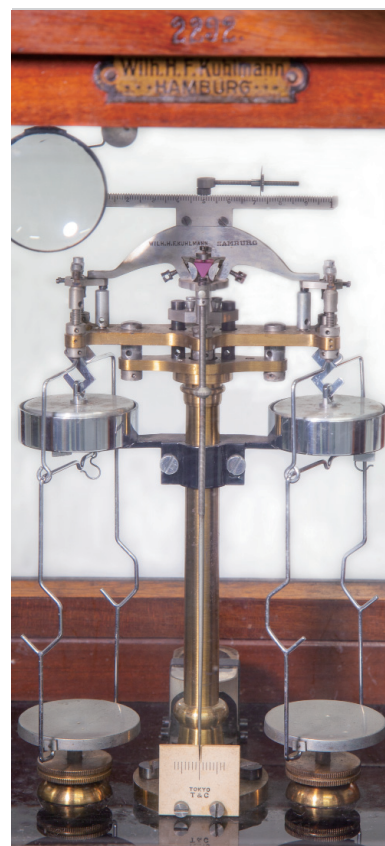
戦争に関する資料も注目に値する。在学中の1937（昭和12）年に日中戦争が始まり、商大でも軍事教練の強化など戦時色が濃くなる。当時、満20歳になると徴兵検査を受けなければならなかったが、大学等の学生は26歳まで徴兵を猶予された。資料群には、壮丁予備検診の実施通告や徴収延期願に基づく延期証書が残る。なおその後の陸軍時代の軍服や背囊、医療器具なども寄贈を受けている。

（大学史資料室 田中ひとみ）



140周年展と大学史資料館(大学博物館)
実現にむけてご寄附のお願い → 大阪市立大学夢基金
お申込み時にTOP1「創立140周年記念事業」を選択してください
【お問い合わせ】大学サポーター交流室(夢基金担当) TEL06-6605-3415
<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/fund/xbtf2s>

編集発行
（仮称）大学史資料館設立準備委員会
学術情報総合センター6階 大学史資料室内
TEL：06-6605-3261



元素分析の要であったクールマンの微量化学天秤

1869～1930
1923年にオーストリアのブレーグルは有機化合物の微量分析法の開発の功績によってノーベル化学賞を受賞する。それまでは燃焼させる試料が数グラム必要であったのが、数ミリグラムになり、分析に必要な合成または抽出精製する試料が減り、研究を迅速に行うことを可能としたのである。彼がごく微量の試料による化学分析に成功したのは、ドイツのPaul Bunge社の技師クールマンに依頼し、精度の高い微量天秤を手に入れたからであった。非常に精巧であったため、当時の日本の科学者もわざわざ渡欧して購入し、もち帰っている。

1929年の日本での販売カタログには「微量天秤 最高権威 クールマンウルトラワグを推奨す。感量、精確度、堅牢、使用法の便利、何れの点にも最優秀なり」とあり、販売価 700 円であった（当時の大卒初任給は 50 円ほど）。

1949年の大阪市立大学理工学部の発足にあたり、大阪市は、有機化学研究者として著名な、東北大学出身で、当時大阪大学理学部教授だった小竹無二雄^{1894～1976}を三顧の礼をもって迎えた（ガマ毒研究など）。小竹がリーダーシッ

ブをとる市大理工学部は、当時の優秀な若手研究者をひきつけ、前歴の多彩な研究能力の高い人々が集まった。有機化学分野では、小竹とともに久保田尚志、目武雄も大阪大学から市大に移り、このクールマンの天秤が、研究に不可欠なものとして持ち込まれたことは、非常な幸運であった。

最初のころは振動法で測定していたが、精度は標準偏差 2.5～3.0 μ gであった。京都大学の三井哲夫の指導により、刃の位置や角度などの調整を行い、除振台を置くこととなった。47.5kgの大理石の台を3個のゴム栓の上に置く簡単なものだったが、除振効果は大きかった。また後に、メノウ製の刃と刃受けをそれぞれルビーとサファイアに交換し、さらにエアダンパーを取り付ける改良を行い、これにより静止点での読み取りが可能になり、精度も標準偏差 2.0 μ g前後に向上した。

クールマンの天秤は昭和 30 年代に次の天秤を購入するまで使われ、元素分析の精度を高める上で重要な役割を果たした。（研究支援課 理学部元素分析担当 長澤珠貴）

大学の知を発掘!
003



準備室だより

◆2019年9月5日に第2回（仮称）「大学史資料館」設立準備委員会（メール審議）、10月7日に第3回を開催しました。

◆学内の様々な学術資料などを紹介するこの『NEWS LETTER』については、取り上げる題材について計画を立て、月1号を目標に刊行していく予定です。

◆創立140周年記念特設サイトのなかに、【140周年展+大学史資料館（大学博物館）特設サイト】を設ける準備を進めており、11月公開の予定です。140周年展、および大学史資料館の準備状況の報告や、NEWS LETTERなどを順次掲載していきます。

（仮称）「大学史資料館」設立 準備委員会からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→学術情報総合センター 6階 大学史資料室内 TEL：06-6605-3261